

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル

# 創る

Vol. 22

2022.12

その先の、道へ。北海道  
Hokkaido.Expanding Horizons.



## CONTENTS

### 特集

## 01 地方創生人材支援制度

制度活用市町村の紹介／富良野市、厚沢部町、大空町

## 05 地域が動く・プロジェクト最前線

■「はっっこ同盟」(長万部町・黒松内町・豊浦町)  
はっっこも 集まりや俺らが ど真ん中

## 07 「なおみちカフェ」から ～地域創生のヒントを探る～

知事が訪問した地域で活躍されている方々を紹介するコーナー

■ 後志編 るすつ子どもセンターぼっけ

■ 胆振編 豊浦町アイヌ文化情報発信施設「イコリ」・地域イベント

## 09 「つながる。HUBest」 【北海道型ワーケーション普及・展開事業】

人と地域との新たなつながりを生み出すワーク施設とコンシェルジュを紹介

■ くしろフィス(釧路市) 相座聖美さん

■ ながめまホワイトベース(長沼町) 増田健司さん



# 地方創生人材支援制度

地方創生を目的として、外部人材の知見やノウハウを取り入れ地域活性化に繋げるため、平成27年度より運用されている内閣府の「地方創生人材支援制度」についてご紹介します。

## 地方創生人材支援制度とは？

地方創生に積極的に取り組む市町村に対し、それぞれの課題に応じて意欲や能力のある国家公務員や大学研究者、民間専門人材を市町村長の補佐役として派遣する制度です。

様々な知見やノウハウを持つ人材が地方に派遣され、地方創生に向けて活躍しています。

## 制度活用方法

市町村は、省庁・大学研究者・民間企業を選択し、内閣府に申請します。その後、マッチング協議を通じて、派遣者が決定されます。

## 派遣者へのサポート等

派遣前には地方創生施策についての研修会が実施されるほか、年に数回派遣者の取組報告や派遣先での課題を共有する報告会・情報交換会が開催され、派遣者間のネットワーク構築のサポートが図られています。

## 派遣する人材等

派遣先市町村	国家公務員 …原則人口10万人以下 大学研究者 …指定都市除く市町村 民間専門人材…指定都市除く市町村
職種	常勤職員 …副市町村長、地方創生監など 非常勤職員 …顧問、地方創生アドバイザーなど
派遣期間	国家公務員 …原則2年間 大学研究者 …原則半年～2年間 民間専門人材…原則半年～2年間
給与報酬等	原則市町村が負担 ※派遣先市町村と派遣元企業等との協議にて決定 (総務省の「地域活性化起業人」とも併用可)



▲派遣者報告会の様子（於：内閣府）

## 課題に応じた派遣人材

派遣者は様々な業務に対応し、市町村の課題解決のサポートを行います。



- ・行政（国や都道府県）と接点が欲しい
- ・交付金関係の業務を担って欲しい
- ・市町村長の右腕として全体統括をして欲しい

### 国家公務員

- ・幹部職員として、主に市町村の全体統括や、知見を生かした業務に従事

- ・地方創生を求めて、地元の大学と連携したい
- ・マクロの視点で、市町村の方針を客観的に知りたい
- ・幅広い知識や知見で職員を育成して欲しい

### 大学研究者

- ・研究開発等、より専門的な知識や知見を活用し地方創生に貢献
- ・また、職員の人材育成にも非常に積極的

- ・事業を円滑に進めるため、企業とのネットワークを構築して欲しい
- ・自由な発想で今までになかった知見を取り入れたい
- ・企業内調整、交渉力を生かした業務を担って欲しい

### 民間専門人材

- ・民間企業で培ってきた経験だけでなく、コミュニケーション力を活かして幅広く貢献

#### 主な取組内容(一例)

- ・広報、シティプロモーション事業
- ・観光事業、イベントの企画・立案
- ・ブランディング化戦略の策定・実行
- ・地域商社の設立、DMOと協力した企画・実行
- ・デジタル専門分野  
(スマートシティ推進や新規ICT推進等)
- ・グリーン専門分野  
(再エネ・省エネ推進や脱炭素推進事業等)

## 制度活用する場合の流れ

※変更となる可能性があります。



## 総務省「地域活性化起業人」制度との併用について

特別交付税の支援措置（上限額）	
派遣元企業に対する負担金など、起業人の受入に要する経費	年間560万円/人（月割）
起業人が発案・提案した事業に要する経費	年間100万円（措置率0.5）/人
起業人の受入準備経費	年間100万円（措置率0.5）/団体

内閣府「地方創生人材支援」制度の活用により「民間専門人材」の受入れをする場合、三大都市圏に所在する民間企業等の社員であれば、総務省の「地域活性化起業人」制度を併用することが可能です。

この制度を併用する場合は、まず「地方創生人材支援」制度にて、民間企業と2月末までにマッチングを成立させた後、民間企業と締結する協定書案を総務省に提出します。総務省における確認後、3月末までに協定書を締結し、人材の受入れを開始します。

「地域活性化起業人」制度は特別交付税措置が受けられるという大きな特徴がある制度です。



## 道内の活用状況について

区分	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計（人）
国家公務員		4	2	3	1	0	1	2	0	13
大学研究者		1	0	0	0	0	0	0	1	2
民間専門人材		2	0	1	0	0	1	2	10	16
各種専門		2	0	1	0	0	0	0	0	3
デジタル（R2～）							1	2	3	6
グリーン（R4～）									7	7
計（人）		7	2	4	1	0	2	4	11	31

道内市町村でも地方創生人材支援制度を活用している市町村は延べ22市町村、31名を受入れており、他都府県より多くの活用実績があります。

特に、民間専門人材は脱炭素社会の実現に向け、令和4年度からグリーン専門人材が追加されたことにより活用市町村が一気に増加しました。

# 制度活用市町村の紹介

地方創生人材支援制度を活用している  
道内市町村の取組を紹介します。



**民間専門人材**  
**デジタル専門人材**

派遣元 **NTT東日本**  
役職 (市町村) **ICT利活用推進**  
**アドバイザー**  
雇用形態 **嘱**  
氏名 **野村 祐貴 氏**

富良野市

富良野市では、地方における「不便、不利、不安」といわれる社会的課題をデジタルの力によって解決し、ICTを活用して人々にとって住みよい環境を実現する都市「スマートシティ」を目指すとともに、令和4年9月の新庁舎開庁に向けてICTを活用した業務プロセスの抜本的な改革を図るために、令和2年4月、庁内に「スマートシティ戦略室」を設置しました。

スマートシティ戦略室では、企画政策部門、情報システム部門、行政改革部門を担当し、自治体DXに向けて、専門的な知見を有する外部人材を求め、本制度を活用しました。デジタル専門人材については、富良野市

のスマートシティ実現に向けた実行部隊として、「①デジタルに関する専門的な知識や経験を有していること。②コミュニケーション能力にたけていること。③利害関係者との折衝・調整能力があること。」の3点を求めました。

派遣人材には、富良野市のスマートシティ実現に向けて、特に、健康、交通、観光、防災、農業などの分野において、「①現状調査における課題把握②課題解決に向けた企画立案③実証実験に向けた利害調整④実証実験による評価⑤実装に向けた事業展開」などの職務について依頼しました。

派遣後すぐに、各課のヒアリングを通し現状の課題把握からICT利活用に向けたロードマップを策定していただきました。保育所へのICTシステム、市民課窓口でのセルフレッジの導入、高齢者の見守り・新たなコミュニケーションの形成やデジタル地域通貨、部活動のオンライン支援に向けた実証実験に試み、現在、社会実装に向けた取り組みや、さらなるICTの導入による市民の利便性向上に向けた取り組みを行っていただいております。



▶市民とのミーティングの様子



▶保育所へのICTシステムの導入により、登降園時間をデジタルで記録

**派遣者の声**

のいり ゆうき  
**野村 祐貴 氏**

住民の方々の望む富良野市にあつたかたちでデジタル化を進めていくためには、「対話」が重要だと考えています。誰ひとり取り残さないスマートシティの実現に向けて、皆様の声に耳を傾けて、ひとつでも多くの社会課題の解決と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

進学や就職などで富良野市を離れる若者も多くいると思いますが、10年、20年後に、「自然豊かな富良野に戻ってきたい」と思ってもらえるように、デジタルやデータを活用することで、よりよい暮らしができる富良野市を目指して協力していきたいです。

大学研究者

派遣元 **弘前大学**  
役職 (市町村) **地方創生アドバイザー**  
雇用形態 **非常勤**  
氏名 **蒔田 純 氏**

厚沢部町

厚沢部町では、平成27年に地方版創生総合戦略を策定し、各種町の事業を展開していましたが、地方創生を推進していく上では今まで以上に民間事業者の参入を活性化することが必要であったため、この制度の利用について検討を始めました。

はじめに町で求める人材として、町政を進めていく上で総合計画などの推進管理、役場各課との調整力、また民間との連携などノウハウがある方を探している中で、「新経済連盟」に所属する蒔田さんを非常勤の地方創生アドバイザーという役職でマッチングすることが叶いました。蒔田さんには新事業の企画・立案や既存事業への助言や提言をいただきながら活動してもらいました。主に「公営塾の開設」「自治体職員のベンチャー研修」「遊休施設の活用や促進」といった3つの事業に注力し、町の創生に寄与していただきました。その中でも、公営塾の開設は大きく、町内に塾がないため、都市部の生徒と同様の教育環境を確保し、この情

報化社会の急激な変化に対応できる子を育むとの考えから公営での塾を開設しました。当初は中学3年生を対象としていましたが、現在では中学全学年から高校生まで範囲を拡充したことで、生徒も増え、学力向上とともに少しでも町の良さを知ってもらい、若年者の町外流出に歯止めが掛かることを期待しています。

また、蒔田さんには多方面で人脈を活かし、民間企業との橋渡し役を担ってもらったことにより、各種事業の幅を拡げることができました。これからも外部の視点を取り入れ、町の発展に繋げていきたいと考えています。



まきた じゆん  
蒔田 純 氏

非常勤としての派遣だったため、職員とのコミュニケーションを保つのが難しい面はあったと感じています。

また、自分に求められていた役割は事業の企画立案などであり、常駐ではないので事務的な作業は現場職員に任せざるを得ないため、ここでもコミュニケーションの重要さを再認識することとなりました。この2年間で色々なやり取りへの思いと、簡単に実現できないものかしさはありましたが、この経験を踏まえ、これからも地方創生への一助をと考えています。

## 国家公務員

派遣元  
法務省  
役職 (市町村)  
総務課参事 (地方創生担当)  
雇用形態  
常勤  
氏名  
塚原 章裕 氏

大空町



▲都市部に負けない教育機会を！  
公営塾開校式

大空町住吉地区には、法務省が所有する豊富な自然が残る広大な農地、網走刑務所住吉作業所用地があります。現在、受刑者による刑務作業等は行われていませんが、以前は通年泊まり込みで開墾・耕作等や樹木の伐採等の作業を実施しており、周辺の地元農家とも公私にわたり交流していた時期もありました。過去、刑務所職員や受刑者も地域の一員として、地域社会と良好な関係を築いていた経緯も踏まえ、住

吉作業所用地を地域活性化にも再犯防止にも資する形で活用して行くこととなりました。

利活用方法の検討に当たっては、関連法令等も踏まえた事業スキームの構築や各関係機関との緊密な調整などが必要不可欠でした。そこで、網走刑務所を始めとする矯正施設の管理監督や被収容者処遇に係る企画立案等を行っている法務省から用地活用や再発防止の取組に精通する人材を派遣いただき、住吉作業所用地の利活用検討を進めていくこととなりました。

派遣職員による主な職務内容は、住吉作業所用地の利活用に向けた検討・協議・調整等であり、関係機関で構成する協議会を設置するとともに、本事業に関心のある民間事業者等からの情報や意見等を伺うなどして検討を進めました。その結果、地域住民・事業者との連携により令和3年度から、観光客、高齢者、障がい者等が活躍・交流できる農園・果樹園として「大空町すみよしふれあい農園」事業を実施するなど、地域の活性化に繋がるよう取り組んでいただきました。

また、この取組のほか、民間企業等と連携した地域の魅力発信や大空町移住・定住支援室の設置、大空町まちづくり推進塾の開催等にも取り組んでいただきました。

網走刑務所住吉作業所用地の利活用

に向けた検討については、専門的な視点を活かしつつ、地方創生に資する施策に結びつけることができたことから、制度を有効に活用できたものと捉えております。



▲民間事業者等と住吉作業所用地で打合せを行っている様子



つかはら あきひろ  
塚原 章裕 氏

出身省庁に関係する業務だけではなく、町政に大きく関わるような業務も担当させていただき、非常に貴重な経験になりました。行政サービスの受け手である町民からの様々な声が直接届く環境の下、限られた人員・財政によって町民のニーズに応えていかなければならないことの大変さ、そして同時にやりがいにもなることは、実際に基礎自治体で勤務しなければ知ることはできませんでした。

「黒松内町」歌オブナ林など豊かな  
自然環境が生み出す落ち着いたある町



後志総合振興局  
黒松内町  
天然記念物・歌オブナ林

渡島総合振興局  
長万部町  
特産品「モガニ」

胆振総合振興局  
豊浦町  
特産品「ホタテ」



「長万部町」駅弁かにめしの町  
として全国的知名度がある

「豊浦町」ホタテ耳吊り養殖  
噴火湾における養殖発祥の地

「はしっこ同盟」  
はしっこも集まりや  
俺らがど真ん中

「はしっこ」の俺ら

長万部町（渡島）、黒松内町（後志）、豊浦町（胆振）の3町はそれぞれ別の振興局管内の「端」に位置しており、振興局の境界を背中合わせに隣り合っているにも関わらず町職員同士の交流は少なく、相互の情報が入りにくい環境にありました。

しかし、古くは昭和初期頃から、長万部町の市街地は、豊浦町の方々の買い物などを支えた生活圈であったことや、黒松内町と長万部町は共に国鉄の町として発展し交通の要衝であることなどにより、3町それぞれ親類縁者や高校の学友など人の繋がりが多く、3町の首長も顔合わせする機会が多くなりました。

また、近年の3町は、産業祭り等のイベント時には町内外から人が集まりやすい「便利な田舎」である一方、時代の変化によって、日常的にはより大きな商圏への通過地となってしまうため、観光や物流など様々な面で共通の課題も抱えていました。

「はしっこ同盟」結成

そのような中、平成30年に「令和12

渡島、後志、胆振管内の「はしっこ」に位置する3町が一つの目標に向け、町それぞれの特性を活かした取組を推進するために結成した「はしっこ同盟」について紹介します。

同盟調印後の取組

年度開業予定の北海道新幹線長万部駅の整備計画」の策定に向け、駅の圏域である近隣市町村の首長が長万部町に集う意見交換がありました。その際に、長万部、黒松内、豊浦3町の首長が、地理的条件が一致し共通する課題意識を持つ自治体同士の共感をもとに「3町でなにかできないか」と意気投合。これを機に3町の首長をはじめ、職員間の交流や情報交換等を深めていき、平成31年4月に新幹線開業効果を最大限に発揮させる取組を推進することを目的に、3町連携会議「はしっこ同盟」に関する協定を調印することになりました。

「はしっこ同盟」結成後、3町各町が独自に持ち寄った予算により、長万部町が運営主体の事務局として、取組の検討が始まりました。振興局管内の垣根を越えての取組は、3町にとつて初めての試みであることから、担当で情報交換を複数回重ねて、職員同士の交流を深めながら、新幹線駅だけでなく圏域の活性化に向け、交通アクセス、商工観光の振興など様々な面において



▲ホテルと協力し開催したフェアで提供した3町の食材を使った料理

3町の食材を味わう企画として、センチュリーロイヤルホテル（札幌市中央区）と協力し、令和3年度から「はしっこ同盟フェア」を開催しています。フェアでは、同ホテルのレストランにおいて、「ミニトマト（長万部町）、

### ホテルレストランとのコラボ

「ひとつの地域であり、自分たちの地元」という一体感が生まれ、まちの宣伝効果を高めています。3町のそれぞれ寄り添う意識があるからこそ、地域活動の広がり形成されつつあります。



▲3町のふるさと納税返礼品「はしっこ同盟セット」

「はしっこ同盟セット」は3町のどの町へ寄附しても返礼品として選ぶことが可能で、一つの町への寄附でも3町の特産品を味わうことができる仕組みになっています。

### ふるさと納税返礼品の提供

ふるさと納税の返礼品として、3町の特産品を詰め合せた「はしっこ同盟セット」を作成しました。また、はしっこ同盟結成に至る経緯や3町を紹介する「はしっこ同盟口ビー展」の同時開催、料理提供時に「はしっこ同盟ランチョンマット」を使用するなど、レストランの特別メニュー以外の部分でもはしっこ同盟に興味を持ってもらえる工夫を凝らしました。



▲札幌チカホ空間でのふるさと納税PRイベント

### 「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」への参加

令和2、3年度は今金町・せたな町を加えた5町で、北海道運輸局の実施する「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」に新しい周遊観光工リア「はしっこユナイテッド」と称して参加しました。この取組では新型コロナウイルス感染症終息後の訪日旅行者を待ち遠しく思う日本ファンが多いシンガポールへ向けて、5町の魅力を伝えるWEBセミナーを開催しました。



▲シンガポールへ向けたプロモーション事業の様子

### 今後の取組の方向性

新幹線駅の利用だけにとどまらず、地方創生や移住定住、介護福祉や産業振興などの様々な分野での連携の可能性を検討しています。当面の取組としては、各町の産業まつりや大都市圏での物産展などの共同出店、豊浦町の秘境駅、小幌トレッキングや、黒松内町の北限のブナ林ウォークなどの地域資源を活かした周遊観光ツアーの開発ですが、各産業界の人材、特に将来を担う若手の交流に力を入れて、8年後の新幹線長万部駅開業の機運を高めていきたいです。

### 担当者の声

取組を通じて

長万部町新幹線推進課  
新幹線・政策推進係兼  
まちづくり推進課企画係



主任 中村 絵美さん

私は、はしっこ同盟が結成された令和元年度から、担当としてはしっこ同盟の事務局運営に携わっています。最初は隣町との仕事の進め方の違いに戸惑っていましたが、ゼロから手探りで隣町の職員と共同で運営を進めていく中で、黒松内町、豊浦町への理解が深まりました。

昨年12月に行った札幌市内のふるさと納税関係のイベントでは、SNSの告知を見てくれた黒松内町出身である札幌市内の高校生達が、冬休みの帰省途中に立ち寄ってくれて、会場を撮影した写真を自分達のSNSに投稿してくれました。また、豊浦町ゆかりの方とは当時話題だった豊浦町の「海産総選挙」のお話して盛り上がりました。町内でも、様々な場面で、3町の繋がりを「はしっこ」と表現してくれる住民が増えている、と感じます。

こうした取組を通じ、隣町の住民との繋がりが若い人が自分の町を意識してくれていることを身近に感じられることは良いことだなと感慨深く思います。また、3町分の住民から応援の声を聞けるようになり、仕事のモチベーション上昇に繋がっています。

# 『なおみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～



▲「子どもたちの夢と希望がたくさん詰まったポケットのような施設」であって欲しいと願いを込め、『ほっけ』と命名されました。



後志編

## なおみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様にその様子をお伝えします。

令和4年9月1日訪問

## 「るすつ子どもセンターほっけ」編

今回まずご紹介するのは、留寿都村の地域共生型の児童福祉中核施設「るすつ子どもセンターほっけ」です。

この施設は、平成27年に、子どもたちの成長を就学前から就学後まで一貫して把握しやすい環境を図ることを目的に、保育所、子育て支援センター、放課後児童クラブ、小型児童館の機能を複合化し、村営の施設として開設されました。市街地中心部に建設することで、施設の空き時間を地域の活動に有効活用するなど、多世代交流の場として「コミュニティ維持」に資する役割も果たしており、子どもたちだけではなく、地域の方たちも利用できる地域共生型の施設となっています。

また、この施設には留寿都村をはじめ、後志産の木材がふんだんに使用されています。

子どもたちが植林への参加を行い、植林した木が成長したときに、木材となり施設の補修に使用されるなど、森を育てることなどの必要性について、施設そのものを教材として学べることも、地材地消への理解を深めることにも役立ちます。

知事の訪問当日も、木のぬくもりの中で、子ども達がのびのびと過ごしている姿が印象的でした。

この素晴らしい施設のもとで、地域の将来を担う多くの子ども達が育っていくことが期待されます。



▲子どもたちの地材地消への理解を深めるため、「ほっけ」を教材とした工事現場見学会



▲木のぬくもりが感じられる明るい室内。地中熱の利活用や高い断熱性と気密性を有する構造により、エネルギー消費量を50パーセント以下まで削減するZEB Readyを目指した施設となっており、「ゼロカーボン北海道」を牽引する取組として、注目を集めています。



▲平成28年には、取組が高く評価され北海道経済産業局の「北国の省エネ・新エネ大賞」を受賞



なおみちカフェ（留寿都村編）の動画はこちらからご覧いただけます。（YouTubeチャンネル）

地域の木材がふんだんに使われた本施設を教材として、これからの地域の将来を担う多くの子ども達が成長していくことが心から楽しみです。

あらためて地域材の魅力を実感するとともに、地域の明るい未来を感じさせていただきました。

当日の知事の言葉から



▲毎年、地元のアイヌの方たちは神々に感謝を述べる伝統的儀式「カムイノミ」などを行っています。



令和4年9月2日訪問

豊浦町アイヌ文化情報発信施設「イコリ」

・地域イベント編

次に、豊浦町の地域の魅力発信の取組をご紹介します。まず、礼文華海浜公園にある豊浦町アイヌ文化情報発信施設「イコリ」です。

アイヌ語で「宝物」を意味するこの施設は、豊浦町の宝であるアイヌ文化遺産を広く町内外に発信することを目的として、本年4月にオープンしました。施設内部には熊の毛皮やイナウ（祭具）などを展示し、公園や隣接するキャンプ場を訪れた人がアイヌ文化に触れられるようにするなど、アイヌ文化の普及・啓発を推進するとともに、地元のアイヌの方々が伝統的儀式を行うためにも施設が活用されています。

施設の隣には、トレーラーハウスを活用した宿泊施設も整備されており、今後は、アイヌ文化や地域の歴史を学べるパッケージツアーも検討されているとのことでした。

こうしたツアーなどを活用し、今後、より多くの方々がこの施設を訪れることが見込まれます。

また、この日の懇談には、一般社団法人噴火湾とよら観光協会の岡本事務局長やTOYOURA世界ホタテ釣り協会の宇川チエアマンも参加され、豊浦町の海の幸を候補者に見立て人気ナンバー1を競う企画「海産総選挙」や、町の宝であるホタテを使用したご当地競技「ホタテ釣り選手権」など、皆さんの地域への愛と柔軟な発想によって生み出されたユニークな取組についてもお話を伺いました。

いずれの取組も、各種メディアに大きく取り上げられるなど、話題を集めています。

伝統文化の発信や、地域資源を活かしたユーマアあふれる取組によって、今後ますます注目を集めることが期待されます。



▲宿泊施設として整備されたトレーラーハウス



▲ユーマアあふれる大会ポスター。プロモーションにも力を入れています。



▲海産総選挙 鮮魚公報



なおみちカフェ（豊浦町編）の動画はこちらからご覧いただけます。（YouTubeチャンネル）

当日の知事の言葉から

この新しい施設や海産総選挙、ホタテ釣り、これらを支える方々が、どのように地域を盛り上げていこうか考え、実践し続けているのは、本当にすごいことだと思います。

この素晴らしい取組を多くの方に知って頂けるよう、北海道も力を尽くしていきたいと思えます。



# 北海道型ワーケーション普及・展開事業

## つながる。HUBest

人と地域がつながるベストな場所が北海道にはある

「つながる。ハーベスト」とは？  
 「新しい働き方」として注目されているワーケーション。その魅力のひとつでもある、人と地域とのつながりを通じて新たな活動を生み出すことができるワーク施設と、そこでの出会いを創り出すコンシェルジュをインタビュー形式で紹介します。

### 第七弾 釧路市

#### くしろフィス

相座 あいざ 聖美 さとし さん  
 (株式会社つくしろ 代表取締役)



「釧路だから出来ない」とか「都会に行かないとダメ」など、やれない理由ばかりでくるので、それをとめたいと思っただけのきっかけです。今はPCとネットさえあれば、世界中どこでも、もちろん釧路でも仕事ができるので。

また、私自身がシングルマザーとして、一人親になった時に働くことの難しさや厳しさを体感しているので、女性の起業支援もしています。

——利用者には常連の方が多いのでしょうか？

リピーターは結構多く、仕事や長期滞在で夏場だけ釧路にいる方も定期的に使ってくださいます。また、地元の方だと、デザイナーやカメラマン、キャリアコンサルタントなど、様々な職種の方に利用していただいています。

「くしろフィス」とは？  
 ——コワーキングスペースとシェアオフィスの機能を持つ「くしろフィス」をつくったきっかけを教えてください。  
 ここは立ち上げて7年目ですが、その前、私は若者相談支援のスタッフをしていました。若い子と話をしていると、

彼らには、私の仕事でチラシ作成や写真撮影をお願いしたりと、一緒に仕事することも多くあります。一人だとしてできることは限られますが、色々な人たちがあつまっているのです、大きな仕事を出来たり、新しい取組が生まれたりしています。

### 「くしろ」の魅力

——相座さんは「ワーケーションコンシェルジュ」も務められていますか、ワーケーションに限らず地域内外の人の士をつなぎ役や、若者や女性の支援もやられているのですか。

そうですね。あとはキャリアコンサルタントとして、求職中の方の相談対応やセミナーの講師をしたり、起業したい方の支援をメインに活動しています。職場研修なんかもやっているんです。

ワーケーションで釧路に来られる方は、

若い方が多いですね。何年か前にフリーランスの方が単身で来られたのですが、その方はお子さんが花粉症をお持ちで、花粉を避けられる場所を探していました。結果、釧路を気に入っていただき、次は家族を連れてワーケーションしたいと仰っていました。

——相座さんが考える、釧路の魅力を教えてください。

涼しい・花粉が少ないなど、本州にない強みが沢山あると感じていますし、釧路は地元の人同士が互いの得意分野を知っているのが、外からお客さんを「つなぐ」ことが得意です。つなぎあつことで、違う仕事が入ってきたりするんですよ。また、ワーケーション等で外から来る方は、地域の仕事や立場を奪うのではなく、相乗効果で地域をよくする人達だと思っているので、そこを地域が理解してつながっていくことが必要ですね。

——これから釧路に来られる方に一言メッセージをお願いします！

今は距離も時間も関係なく、釧路でもどんな事もできると思います。私がここにいる限り、連絡いただければ力になれるので、相談していただきたいと思います。

是非一度お立ち寄りください！



釧路市中心部に位置し、コワーキング利用やセミナー開催の他、相座さんへの各種相談も可能





第八弾 長沼町

ながぬまホワイトベース

増田 健司さん  
（合同会社マスケン 代表社員）



ながぬま  
ホワイトベースとは？

ホワイトベースは平成31年3月にオープンされた、長沼町中心部に位置するコワーキングスペースですが、どんなコンセプトでつくられた施設なのか教えてくださいませんか？

立ち上げ時は新型コロナウイルスが流行する前だったこともあり、修学旅行でグリーンツーリズムを体験しに来る学校が多かったのですが、日中生徒が農家仕事を体験している間に、添乗員さんこちらで働いてもらえればと考えていました。あと、空港も近いのでテレビクルーの人たちが

ここで編集作業をしたり、偶然ここで隣あった人同士が意気投合して、何か新しい取組、「長沼王デル」と呼べる様なものが生まれれば良いなと思い、ホワイトベースを設立しました。

現在は、どのような方の利用が多いのでしょうか？

今年度に関しては、長沼町で実施している「長沼町ワーケーション×チームビルディング創生事業」を通じて利用される方が多いですね。例えば、夏には神戸から家族で事業に参加された方が、2ヶ月以上滞在されて、ここを仕事場にしていました。

あとは、町内の農家がここに集まって、定期的に研修会を行ったり、書道教室や家庭教師の場としての利用、また帰省した学生がここからリモート授業に参加するなんてこともあります。

※ホワイトベースでのテレワーク及びチームビルディング体験（個々人のスキルや能力・経験を最大限に発揮し、目標達成できるチームを作り上げていく取組）を通し、参加者に町の魅力をより深く実感してもらおう事業。



ホワイトベースから  
「つながる」

この場所から新たな取組が生まれ、といったエピソードがあれば教えてください。

具体的に何か生まれるという意味ではこれからです。例えば、私の町内の知り合いがよくここを訪れるので、その方を町外からの利用者にも紹介して



個室や打ち合わせに利用できるミーティングルームも完備したコワーキングスペース。貸切利用も可能

います。もしかしたら今後何か起こるかもということも多いですね。

また、このシェアオフィスを利用して、観光関係や地域商材の販売を行う「Regional Design 株式会社」が起業しました。同じくここを活動拠点とする元地域おこし協力隊の方が最近行政書士の資格を取ったので、色々と連携できる幅も広がっています。僕も元々農協の職員だったので、地域の農業関係者を紹介することも強みです。

今後の話の流れで伺いますが、これからこのホワイトベースをどのような場所にしていきたいか、将来の展望があれば是非お聞かせください。

設立当初のコンセプトとは大きく変わらず、「長沼発の何か」をつくることに協力していただける人に来てもらいたいと考えています。

何か新たな取組が生まれれば、出世部屋というか、何かが誕生する場所ということでは有名になるんじゃないですか（笑）

「スペシャルサンクス・ホワイトベース」という感じですね！

これからワーケーションでお越しになる方には、都会の喧噪を離れてリラックスしていただきながら、地元の農家さんなど町内の人とも仲良くなつて、お互いに交流が生まれたら良いかと。

そしてワークはもちろんのこと、パークションでも楽しみを共有して、地域になじんでいただければと思います！

このインタビュー記事は、誌面の都合により抜粋版を掲載しています。

インタビュー全文については、北海道公式HPにて公開していますので、是非ご覧ください。



インタビュー全文はHPをCheck!

該当する施設を月1回程度、HPでご紹介！

「つながる。ハーベスト」対象施設

- テレワークができる施設
- 地域を知るコンシェルジュがいる施設
- 誰もが気軽に利用できる施設
- 地域住民も利用している施設



参加  
無料

# 北海道とつながる カフェ

## 北海道とつながろう。

自分らしく働き、休日を楽しむ、北海道暮らしの魅力…  
道内各地で活躍する移住の先輩や  
北海道ゆかりの方々とのリアルな話をしてみませんか？

### 『オンライン』と『対面』の両方でイベント開催！

※予定は変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。詳しくは公式アカウントよりご確認ください。

STEP  
1

#### 北海道と つながるカフェ

北海道の魅力テーマに、カフェを開催！各回のテーマに沿った北海道ゆかりのゲストや  
移住者の方が北海道暮らしのリアルや楽しみ方、つながり方をご紹介します！

7月

#### 子育て × 教育環境

北海道ならではの地方と都市部の子育て環境についてご紹介します。

8月

#### 自然 × サイクリング

北海道のサイクリング環境はどうなっているの？  
北海道の絶景とともにご紹介します。

10月

#### 北海道食材 × 東京製菓専門学生

北海道の新鮮な食材を使って東京の学生がつくる  
レシピとは？食の魅力をお伝えします。

11月

#### 自然素材 × コスメ

北海道の自然素材を使ってつくられる化粧品が  
続々。自然素材の魅力をお伝えします。

12月

#### 子育て × ワーク

北海道の働く女性たちの今をご紹介します！子育て世代  
の職業選択の広がりをお伝えします。

1月

#### サウナ × ウィンタースポーツ

寒いだけじゃない！北海道の冬の楽しみ方、過ごし  
方をご紹介します。

STEP  
2

#### もっと！ つながる交流会

テーマは暮らしの必須アイテム！ゲストや参加者と意見交換しながら、  
さらに北海道暮らしが身近なものに…？もっと！北海道とつながりましょう！

11月

#### 気になるお仕事

北海道といえば農家、酪農…それだけではありません。  
地域に根ざした様々な仕事について語りましょう！

1月

#### 住まいのあれこれ

寒い冬もおうちの中はほかほか。北海道の住宅  
事情を大公開！住環境について語りましょう！

2月

#### 北海道を体験しよう！

北海道といえば、美味しい食！農業の体験や、  
お試し移住体験について語りましょう！



北海道とつながるカフェの  
公式アカウントもご確認ください！



【お問合せ】北海道とつながるカフェ運営事務局 運営会社：株式会社インサイト ① jimukyoku01@ppi.jp Tel.011-233-2222 (担当：中西・宣(せん))

北海道と首都圏の皆さまをつなぐ相談窓口やサイトにぜひご訪問ください。

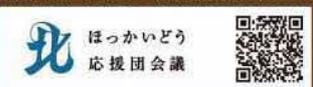
東京交通会館8F北海道の移住相談窓口



道内市町村の魅力や北海道での暮らしの情報が満載！



北海道の未来づくりを進めていく企業・団体・個人のネットワーク



北海道の地域創生をふるさと納税で応援してください！



北海道 総合政策部 地域創生局地域政策課 ② hokkaido.iju@pref.hokkaido.lg.jp Tel.011-204-5089



「創る」バックナンバーは、「ほっかいどう応援団会議ポータルサイト」へ

バックナンバーは  
こちらから！

ほっかいどう応援団会議

🔍 検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>